

鶴見大学仏教文化研究所紀要第16号・雑報

雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	16
ページ	245-262
発行年	2011-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000392/



平成二十二年
度
仏教文化研究所活動報告

【第一回 運営委員会】

日時 平成二十二年四月十五日（木）十二時二十分～十三時十五分

場所 仏教文化研究所共同研究室（六号館二階）

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、小林恭治所員、伊藤正義所員、加藤寛所員、下室覚道所員、宗墓秀明所員、星野玲子所員、前田伸子所員、小林馨所員、関根透所員、橋本弘道所員

議題

一、審議事項

- ①平成二十二年公開シンポジウムについて
 - ②「總持寺展」の準備体制について
 - ③『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十五号の進捗状況について
 - ④平成二十二年研究例会の開催について
 - ⑤科研費の申請について
 - ⑥その他
- ・ホームページについて

- ・ 図書のリロケーションについて
- ・ 建学の精神に関するアンケート調査について
- ・ その他

二、報告事項

- ① 平成二十二年度事業計画について
- ② 平成二十二年度執行予算について
- ③ 仏教文化研究所所員について
- ④ 鶴見大学仏教文化研究所規程の改正について
- ⑤ 鶴見大学仏教文化研究所専任研究員任用規程について

【公開シンポジウム】

日時 平成二十二年六月十二日（土） 十三時三十分～十六時三十分

会場 大学会館二階サブホール

テーマ 曹洞宗大本山總持寺御移転百年記念

「公開シンポジウム——總持寺の歴史と文化」

講師・演題

木村清孝所長 「御移転百年に寄せて」

納富常天顧問 「總持寺の歴史——鶴見移転を中心として」

岩橋春樹所員 「總持寺の文化——所蔵文化財の諸相」

(※公開シンポジウム記録は本紀要に掲載)

【第二回 運営委員会】

日時 平成二十二年七月二十二日(木) 十二時二十分～十三時五分

場所 仏教文化研究所共同研究室(六号館二階)

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、小林恭治所員、伊藤正義所員、加藤寛所員、下室寛道所員、宗基秀明所員、星野玲子所員、前田伸子所員

議題

一、審議事項

- ① 科研費申請の準備状況について
- ② 『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十六号の原稿募集、編集予定について
- ③ 平成二十二年研究例会の運営等について
- ④ その他
 - ・平成二十二年度仏教文化研究所図書購入の計画について

二、報告事項

- ① 『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十五号の刊行・配布について
- ② 平成二十二年度仏教文化研究所公開シンポジウムの結果について
- ③ 「總持寺展」へ向けての進捗状況について
- ④ 生涯学習セミナー(平成二十二年第二クール)「一歩すすんだ仏教入門」の開講について

⑤ 仏教文化研究所専任研究員の職務について

⑥ その他

・ 仏教文化研究所蔵図書のリロケーションについて

【第三回 運営委員会】

日時 平成二十二年十月二十八日（木）十二時二十分～十三時二十分

場所 仏教文化研究所共同研究室（六号館二階）

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野眞知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、

小林恭治所員、伊藤正義所員、加藤寛所員、下室覚道所員、星野玲子所員、前田伸子所員、関根透所員、

橋本弘道所員

議題

一、審議事項

① 平成二十三年事業計画について

② 平成二十三年度予算について

二、報告事項

① 「總持寺展」へ向けての進捗状況について

② 生涯学習セミナー「一歩すすんだ仏教入門」の実施状況について

③ 科研費申請の状況について

④ 『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十六号編集の進捗状況について

- ⑤平成二十二年度研究会の開催について
- ⑥平成二十二年度購入図書・資料の選定について
- ⑦その他

・国際学術交流

・パネル展「百年前の總持寺のにぎわい―御移転百年記念―」

【パネル展】

日時 平成二十二年十一月九日（火）～二十六日（金）

会場 大学会館一階センタープラザ

テーマ 曹洞宗大本山總持寺御移転百年記念

「百年前の總持寺のにぎわい―御移転百年記念パネル展―」

概要 鶴見大学生涯学習センターとの共催により「百年前の總持寺のにぎわい」と題して大学会館においてパネル展を開催した。YOUTV、『毎日新聞』、『神奈川新聞』、『中外日報』などで紹介されたこともあり、

期間中にはご本山や近隣の方々、大学の方々など多数の来観者を迎えた。

パネルは二十五枚のボードに十一グループに大きく分けて約百点展示し、中央には図書館の協力を得て六台の陳列ケースを使用し、地図、絵葉書や写真帖などの関連資料約五十点を展示した。十六日間で受付簿記載の来観者の数が四百二十一名、アンケート記入者数が百十九名であったが、期間中に七百五十部用意した「展示リスト」は残部が十八部で、開催期間を通じた来観者数は八百名ほどと思われる。

展示の内容は、總持寺ご移転前の成願寺を中心とした様子、明治四十四年十一月五日から六日までの遷祖式のにぎわいなどを当時の新聞記事や写真で示し、さらにご移転に尽力した石川素童禪師、仏殿や梵鐘ができるまでの写真、そして展示ケースでは總持寺から発行された当時の記念絵葉書、地図や写真帖などを展示した。

来年は總持寺が鶴見へご移転されてちょうど百年となる記念すべき年になるが、是非、總持寺のご協力のもとに今回の展示を踏まえてより立派な記念展示会をあらためて開催したい。

展示用パネルの作成にあたっては、本研究所顧問の納富常天先生のご指導もいただき、歯学部のア部道生先生をはじめとする方々に手伝っていただいた。また開催期間中は広報課や研究所事務局のみならずには大変お世話になった。最後に、横浜市鶴見図書館、横浜市中央図書館、神奈川県立図書館、横浜開港資料館の各図書館・資料館や、成願寺、總持寺、最乗寺などの各寺院や個人には大変貴重な資料をご提供いただき、深く感謝する。(関根透所員記)

【研究例会】

日時 平成二十二年十二月十六日(木) 十七時～十八時三十分

場所 仏教文化研究所共同研究室(六号館二階)

発表者 星野玲子所員「やぐらの劣化と環境調査」

池麗梅研究員「『穢積金剛説神通大満陀羅尼法術重要門』の系譜」

【第四回 運営委員会】

日時 平成二十三年二月二十四日(木) 十一時～十二時二十五分

場所 仏教文化研究所共同研究室(六号館二階)

出席者 木村清孝所長、矢島道彦主任、池麗梅研究員、田口暢穂所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、岩橋春樹所員、

小林恭治所員、伊藤正義所員、下室寛道所員、宗墓秀明所員、星野玲子所員、関根透所員、橋本弘道所員

議題

一、審議事項

- ① 鶴見大学仏教文化研究所規程の改定(案) について
- ② 中国・海南師範大学南海地域文化研究センターとの学術交流協定(案) について
- ③ 平成二十三年度公開シンポジウムのテーマ等について
- ④ 仏教文化研究所の副主任および兼任研究員について

二、報告事項

- ① 『鶴見大学仏教文化研究所紀要』第十六号刊行の進捗状況について
- ② 「總持寺展」の進捗状況について
- ③ 「總持寺展」のオープンセレモニーおよび講演会について
- ④ 歯学部「宗教学」講義担当について
- ⑤ 平成二十二年度購入図書について

平成二十二年 度

仏教文化研究所概要

〔所在地〕 〒230 | 8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見二―一―三 鶴見大学内

TEL ○四五―五八一―一〇〇一

FAX ○四五―五八一―一三九一

〔所 長〕 木村 清孝 鶴見大学学長（哲学）

〔主 任〕 矢島 道彦 短期大学教授（宗教学）

〔専任研究員〕 池 麗梅（仏教学）

〔兼任研究員〕 前田 伸子 鶴見大学副学長（細菌学）

河野 眞知郎 文学部教授（考古学）

石田 千尋 文学部教授（歴史学）

岩橋 春樹 文学部教授（美学・美術史）

小林 恭治 文学部教授（日本語学）

伊藤 正義 文学部教授（文化財学）

加藤 寛 文学部教授（文化財学）

田口 暢穂 文学部教授（中国文学）

小林 馨 歯学部教授（歯科放射線学）

〔顧問〕

- | | |
|-------|-------------------|
| 関根 透 | 歯学部特任教授（倫理学） |
| 宗墓 秀明 | 文学部准教授（歴史学） |
| 下室 覚道 | 文学部准教授（宗教学） |
| 橋本 弘道 | 短期大学部講師（宗教学・教育学） |
| 星野 玲子 | 文学部講師（文化財科学） |
| 永田 勝久 | 本学名誉教授（文化財科学） |
| 佐藤 達全 | 短期大学部非常勤講師（仏教保育） |
| 計良 隆世 | 短期大学部非常勤講師（印度哲学） |
| 尾崎 正善 | 文学部非常勤講師（宗教学） |
| 斎藤 明 | 東京大学教授（印度哲学） |
| 高崎 直道 | 本学名誉教授（宗教学） |
| 納富 常天 | 元大本山總持寺宝物殿館長（宗教学） |
| 柳澤 慧二 | 本学名誉教授（生理学） |

鶴見大学仏教文化研究所規程

(設置)

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(目的)

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

(研究内容等)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行う。

- (一) 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究等の基本的研究
- (二) 鶴見大学及び鶴見大学短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究
- (三) 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究
- (四) 研究会、講演会及び公開講座等の開催
- (五) 研究所の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行
- (六) その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

(研究部門)

第四条 研究所に、次の三研究部門を置く。

(一) 仏教学研究部門

(二) 仏教教育研究部門

(三) 仏教文化財研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(主任)

第六条 研究所の主任は、研究所の所員のうちから、所長が委嘱する。

(所員)

第七条 研究所に、次の所員を置く。

(一) 専任研究員

(二) 兼任研究員

(三) 顧問

二 兼任研究員・顧問には、給与は支給しない。

(専任研究員)

第八条 専任研究員の任用については、別に定める。

(兼任研究員)

第九条 兼任研究員については、次の研究員を置き、所長が委嘱する。

(一) 鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員

(二) 鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員以外の者

二 鶴見大学及び鶴見大学短期大学の専任教員以外の者は任期を一年とし、更新することができる。

(顧問)

第一〇条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(職員)

第十一条 研究所の職員(教員を除く。以下この項において同じ。)は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(運営委員会)

第十二条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第十三条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他寄附金等をもってこれに充てる。

(事務の所管)

第十四条 この規程に関する事務は、研究所事務室が所管する。

(規程の改廃)

第十五条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、行うものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成十一年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成二十年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成二十一年四月一日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成二十二年四月一日から施行する。

鶴見大学仏教文化研究所専任研究員任用規程

(目的)

第一条 この規程は、鶴見大学仏教文化研究所規程第八条により鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）における専任研究員の任用に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(専任研究員の資格)

第二条 専任研究員の被選考資格は、鶴見大学（以下「本学」という。）の建学の精神を深く理解し、大学教授又は准教授相当の研究実績を有する者とする。

(選考結果の上申)

第三条 専任研究員の選考は、一般公募とし、運営委員会の議を経て、研究所所長が当該候補者を学長に上申する。
二 なお選考方法は、書類選考及び面接とする。

(申請)

第四条 専任研究員を希望する研究者は、原則として次に掲げる書類をもって研究所に申請するものとする。

(一) 履歴書

(二) 研究業績一覧

(三) 著書・論文

(四) その他選考に必要な書類

(職務)

第五条 専任研究員は、鶴見大学仏教文化研究所規程第三条（研究内容等）に定める研究・調査活動、その他、研究所の活動に必要な業務を行うものとする。

（勤務・待遇等）

第六条 専任研究員の勤務・待遇等は、鶴見大学職員就業規則によるものとする。

（研究費）

第七条 専任研究員には、研究費を支給することがある。

二 支給額は別に定める。

（諸規程等の遵守）

第八条 専任研究員は、研究等に従事するに当たり、本学の諸規程等を遵守しなければならない。

（規程の改廃）

第九条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経た後、学長の承認を得て行うものとする。

附 則

この規程は、平成二十二年四月一日から施行する。

平成二十一年度 仏教文化研究所購入図書・資料

真慶注『摩訶止観科解』（二十六冊）、寛永十七年（一六四〇）年刊本。

黄泉無著『正法眼蔵涉典統紹』（二十六冊）、一八三七年刊本。

横關了胤『曹洞宗宗制私解』、磨輒社、一九四二年。

神迥述・亮憲・真慶跋『法華文句科解』（二十三冊）、一九六〇年。

『續曹洞宗全書』第三、五卷、第九卷、第十卷、曹洞宗全書刊行会、一九七三～一九七六年。

横關了胤『江戸時代洞門政要』（第二版）、東洋書院、一九七七年。

西嶋和夫『永平廣録提唱』（十一冊）、金沢文庫、一九九六～一九九七年。

『玄應撰一切經音義二十五卷』（日本古寫經善本叢刊第一輯）、国際仏教学大学院大学学術フロンティア実行委員会、

二〇〇七年。

『大乘起信論』（日本古寫經善本叢刊第二輯）、国際仏教学大学院大学学術フロンティア実行委員会、二〇〇八年。

『南北朝遺文』関東編第二卷（自暦応二・延元四（一三三九）至康永三・興国五年（一三四四））、東京堂出版、二〇〇八年。

『南北朝遺文』関東編第三卷（自康永四・貞和元年・興国六年（一三四五）至観応三・文和元年・正平七年（一三五二））、

東京堂出版、二〇〇九年。

『三百帖・法華十軸鈔』天台宗典編纂所編『續天台宗全書』顯教七、春秋社、二〇〇九年。

『正法眼蔵』（水野弥穂子訳註、『道元禪師全集』原文対照現代語訳』第四～七卷）、春秋社、二〇〇九年。

『日本仏教編年大鑑』八宗総覧（大久保良峻ほか監修）四季社、二〇〇九年。

高崎直道 『如来蔵思想の形成』(高崎直道著作集第四～五卷)、春秋社、二〇〇九年。

高崎直道 『大乘起信論・楞伽經』(高崎直道著作集第八卷)、春秋社、二〇〇九年。

高崎直道 『インド思想論』(高崎直道著作集第一卷)、春秋社、二〇一〇年。

The sutra on the concentration of sitting meditation (Taishō volume 15, number 614). translated from the Chinese of Kumārajīva by Nobuyoshi Yamabe and Fumihiko Sueki. Berkeley, Calif.: Numata Center for Buddhist Translation and Research, 2009. (BDK English Tripiṭaka).

Buddhacarita in praise of Buddha's acts (Taishō volume 4, number 192). translated from the Chinese by Charles Willemen. Berkeley, Calif.: Numata Center for Buddhist Translation and Research, 2009. (BDK English Tripiṭaka).

鶴見大学仏教文化研究所紀要投稿規程

一 鶴見大学仏教文化研究所紀要（以下「紀要」という。）は、鶴見大学（以下「大学」という。）及び鶴見大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）において研究又は教育に従事する者の研究業績を内外に発表することを目的とする。

二 紀要に投稿できる者は、原則として、大学及び短期大学部において研究又は教育に従事する者及びこれと共同で研究に従事する者と、仏教文化研究所主催による公開講演会・シンポジウムの講師とする。

三 投稿される論文は、未刊行のものに限る。定期刊行物（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など）や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中の論文は本紀要に投稿できない。但し、学会発表抄録や科学研究費などの研究報告書はその限りではない。

四 投稿する者は、紀要刊行内規で定められた投稿要領に従って原稿を作成する。

五 本紀要に掲載された論文の公衆送信権は、鶴見大学に属する。

附 則

この規程は、平成十八年四月二十日から施行する。